

# 県内水田の地力と 肥培管理の実態

土づくりは農業生産の基本です。ここでは、昭和54年から県内の水田土壌（約180地点）を継続的に調査した結果を紹介します。

## 1 土づくりの実態

コンバインの普及による稲わら還元が進む一方、含鉄資材やケイ酸質肥料の施用は減少傾向が続いています。

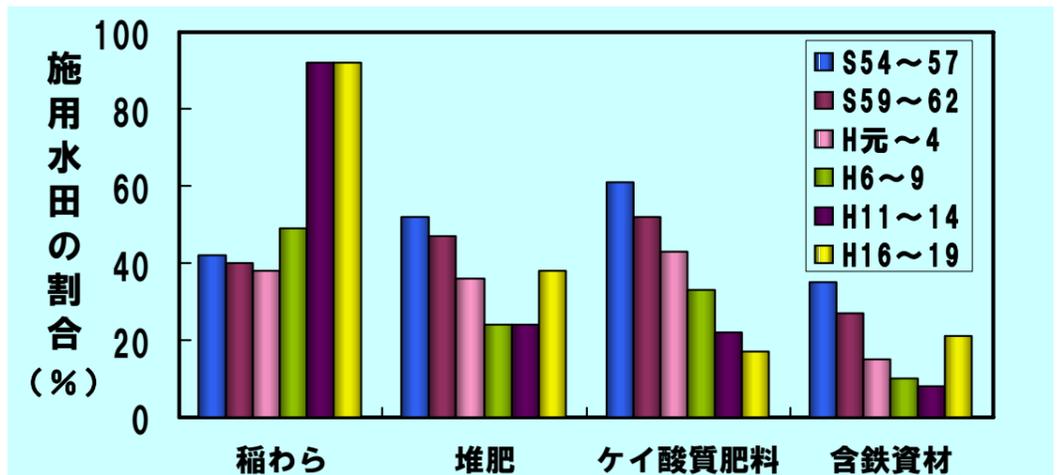


図1 土づくり肥料施用水田の増減

## 2 水田土壌の養分

窒素やリン酸、カリおよび腐植は、診断基準値を満たしていますが、ケイ酸や遊離酸化鉄は近年の減少が顕著で、特に遊離酸化鉄は診断基準値（砂質土0.8%以上、壤～粘質土1.5%以上）を下回っています。

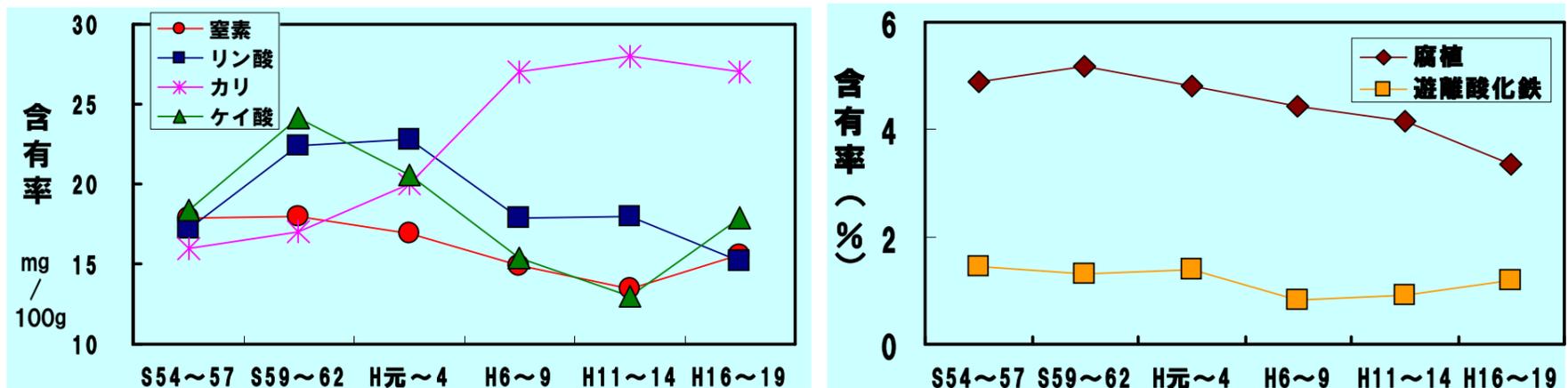


図2 作土の可給態養分の推移

## 3 土づくりで品質の良い‘しまね米’づくり

乳白粒の発生が少ない水田では土壌のケイ酸含量が多いことが分かります。島根米の品質の維持、向上を図るため、土づくり肥料の施用など基本技術の励行が求められます。

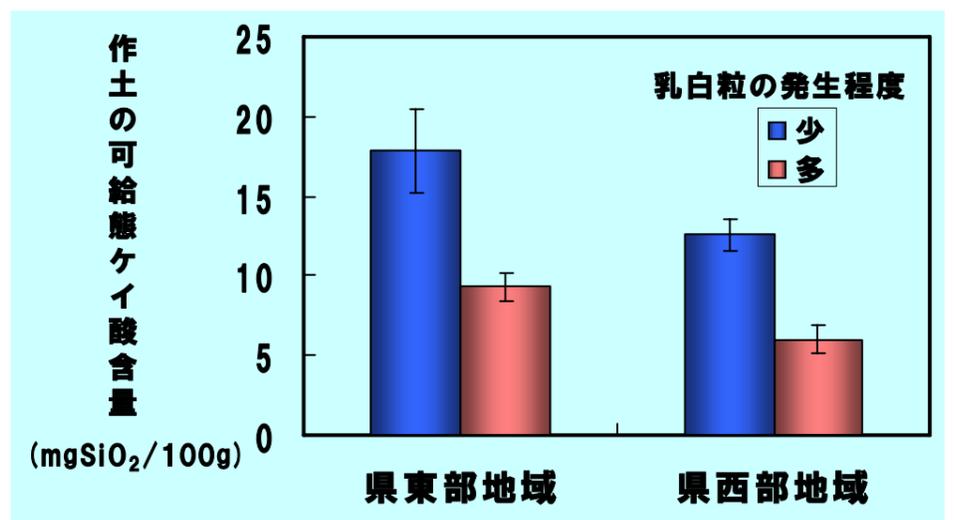


図3 作土のケイ酸と乳白粒の発生